

近況通信 山崎たつえ市議会議員日記 27.3.7

無所属 第41号(27年3月7日) 山崎たつえ 390-0851 松本市島内 6595
f a x 0263-87-7055 ホームページ <http://www.tatsue.jp/> 「日々雑感」

議会質問は「どのような過程を経てなされるか」

3月議会の一般質問は3月2日から4日行われた。私は4日であった。4つの問題を取り上げた。1.ワサビ田周辺への散策について 2. 農産物の消費拡大について 3. 女性職員の部長職への登用について 4. 福島県以外からの避難者支援と住民訴訟についてであった。

与えられた時間は15分。A4のペーパー4枚にしなければ時間が超過し、発言を中断させられる。いつも如何にA4枚にするかの戦いとなる。

では議会発言の形成過程を「ワサビ田周辺への散策について」でみる。

「ワサビ田周辺への散策について」

概要: わさび田周辺への散策の発言は、どのような過程を経て質問されていったか。

市民からの提案を受け、山崎は現地視察をする。

その上で、松本市の観光課に現地を見て頂き、助言を受ける。助言により、県の見解の必要性が判り、山崎は県に行き、県が河川敷の環境整備をしてくれる可能性を探った。可能性があると推測した。又、松本市の建設課、環境清掃課に関わる仕事であるも事も判ったので、その関係者に来て頂き、話合う。その後、観光地としての将来的見込みについて松本市の観光課の見解を伺う。質問の回答は、観光課がする事になる。

議会発言により、多くの職員が関わった。職員の中で広く知る事となったように思う。議会発言後、この事は市民タイムスに掲載された。又、議会だよりにも掲載する。

島内のわさび田は一気に多くの人の関心事となった。

今後は地元町関係者を含む提案者の方々に期待する。

写真上は松島橋下流のワサビ田、左は視察時。左は山崎。



日時を辿る

★27年2月8日 島内地区新橋町会の新年会で市民から「わさび田の観光地化」の

提案がある。

★2月12日 山崎は提案者宅を訪問し、話を聞いた後、現地を視察する。

★2月19日 松本市観光課長、他一人に現地を見て頂く。提案者も同行する。市の課長は三つの助言をする。

① 河川敷は県の管理下にある。県がどう対応するか不明？

② 市民のニーズが必要 ③ 地主の了解が必要。

その見通が立って初めて観光計画に入る。駐車場、橋、道路等膨大な金がかかる。

★2月19日 山崎は市の課長の助言、①の「県が動いてくれるか不明」の問題解決の為に長野県建設事務所奈良井川改良事務所にゆく。山崎は「3月議会でワサビ田周辺への散策について、質問する。河川敷をきれいにして頂けるか。河川敷の環境整備が目的ではない。将来は観光地に行きたい。その初めの一步である」と言う。県は「そうであるならば、…」と前向きな姿勢を示して下さる。

★2月20日 県の対応を確認した上で、市の建設課、並びにゴミが散らかっている所以市の環境業務課に来て頂き懇談する（5人）。関係者は現地を見に行つた。

★2月25日 山崎は建設課と環境業務課と話し合い（5人）。

市は「県は『河川敷の整備、廃棄物のかたづけをする』と言っている。それが出来れば、議会発言をする必要はないのではないか」と言う。

山崎は「発言します。目的は観光地にする事。河川敷の整備は初めの一步。観光課長は、その上で地域の皆様に宣伝してもらわないといけぬ。『ここは素晴らしい』と言う人を増やさないといけない」と言われた。」

★2月26日 議会発言打ち合わせを建設課と環境業務課とする（5人）。

★2月27日 建設課と環境業務課と観光課と打ち合わせをする。観光課が答弁の窓口となる事になる。

★2月27日 観光課と打ち合わせをする。

★2月27日 山崎は島内地区新橋町会長、提案者O氏に今までの経過を話す。地元町会には、以後の宣伝、事業展開など、関わって頂かなければいけないからである。島内地区新橋町会長も「わさび田の開発について、やろう」と考えていた所であった」と言われた。

私の今の役割は「初めの一步である河川敷の環境整備をする事、市役所にワサビ田に関心を持ってもらう事」であると思っている。



★3月4日山崎が議会発言をする。この問題の発言時間は2分。2分の発言の前に多くの関係者の動き、時間がある。提案者である地元関係者が傍聴下さる。以上が発言に至る過程の一コマである。写真はワサビを採っている風景。27.2月現地にて撮影。

次の会報は27年3月18日に出来る予定です。